# 高め合う人と企業

## 第8回 ひょうご仕事と生活のバランス企業表彰

### MHIニュークリアシステムズ・ソリューションエンジニアリング株式会社（神戸市兵庫区）

## 女性総合職を積極採用

「キャリアリターン制度」で復職した女性設計技術者。二児のママ

原子力プラントや原子力関連施設、油圧シャベルなどの計画から詳細設計までを手掛ける総合エンジニアリング会社。900人近い社員のうち、9割以上を設計技術者が占める。

「技術者は、時間を忘れて仕事にのめり込むところがある。だからこそしっかり歯止めをかけないと」と山口正晴総部次長。労使参加で月に2、3回開く「時間外運営委員会」では、残業の多い社員を対象に、当該上司を通じて代休やフレックス制度の利用を促している。

女性総合職の採用にも、十数年前から力を注いでいる。現在、設計技術者のうち女性社員の占める割合は約1割にとどまるが、今年の採用者は2割を女性が占める。子育て中の女性社員が利用する「短時間勤務制度」は午前10時10分～午後3時10分の「コアタイム」が含まれれば前後の勤務時間を縮めることは自由で、保育園の送り迎えがしやすくなっている。いったん退職した社員が復帰できる「キャリアリターン制度」も用意され、夫の転勤で退職した女性社員が復帰したケースもある。

女性の主任も十数人いる。「今後は人事制度も見直して、実力のある社員がより早く昇進できるようにして、女性管理職を一人でも多く増やしていきたい」と話している。

### 医療法人仁風会・小原病院（神戸市兵庫区）

## 新卒離職者は5年ゼロ

24時間対応の院内保育所が整備され、夜勤、一時保育にも対応している

小原病院は当初から保育所を整備し、夜勤にも対応。1日700円の利用料で現在は7人の職員が利用している。夜間や夏休みなど休校日の臨時のニーズも多く、一時保育として柔軟に対応している。

5年前に現看護部長の谷村美保さんと現事務長甘利茂夫さんが着任して以来、働きやすい環境づくりの取り組みはさらに加速。例を挙げると、時間帯ごとに一人一人の看護師がどのような業務をしているのか洗い出した上でシフト体制の見直しを図り、業務の集中度合いによって人員配置の厚みを変えて残業をなくした。短時間正職員制度などを活用し、週30時間の勤務時間を満たせばその中で自由にシフトが調整できるようにした。

看護部長自身、医療経営学を学びたいというかねての目標を実現するため、現在は大学院に通学している。こうしたリーダーの姿勢もあり、病院全体に学びの機運が広がっている。病院では職員が外部研修を無料で受けられるようにサポートしており、多くの職員が学びに出ている。

有給休暇取得率も90%を超えており、当たり前のように取得する風土が根付いている。さらに心身の健康対策や充実した福利厚生の結果、ここ5年間の新卒採用看護師の離職はゼロを実現している。

### 医療法人社団・伊藤歯科クリニック（西宮市）

## プロ意識育ち経営安定

朝礼。意思疎通や情報共有を大切にすることでトラブルを防ぐ

6年ほど前まで「スタッフ同士があいさつさえも交わさない職場だった」という伊藤歯科クリニック。コミュニケーション不足でミスが頻発する状況を改めようと、経営理念を定め、全員で共有するところから始めた。

思いに共感してくれるパート歯科衛生士のために、勤務時間を午後5時半までにして子育てを両立できる「短時間正社員制度」をつくった。

「全ての衛生士が担当患者を受けもつことになり、ベテラン衛生士が主力になった。衛生士一人一人に〝固定患者〟がつくようになると、プロ意識が芽生え、安定した質の高い治療にもつながっている」伊藤院長は話す。

毎週のカンファレンス以外に、スマホアプリを活用して全ての患者の状況の情報を共有し、その患者を担当する衛生士が休んでも対応できる体制も整えている。その結果、有給休暇の取得率もほぼ100%だという。

チーフを務める平山麻依子さんは育児休暇や短時間勤務制度を利用しながら働き続けてきた。「当院の歯科衛生士はよりレベルの高い認定歯科衛生士の資格取得を目指しており、患者さんのために自発的にレベルの向上を図っていることも誇り」。前向きな雰囲気が伝わって、新年度は4人の歯科衛生士の採用も決まっている。

キャッチフレーズでグランプリを受賞した長川英美さん

### キャッチフレーズ募集 グランプリに長川英美さん

## 「ワーク・ライフ・バランス　未来を託す　あいことば」

兵庫県は11月を「ワーク・ライフ・バランス月間」と定め、その取り組みをより定着させるため「ワーク・ライフ・バランスキャッチフレーズ」の募集を2015年度から実施している。

246の応募作品の中からグランプリ（兵庫県雇用対策三者会議賞）に選ばれたのは、長川英美さん（たつの市）の「ワーク・ライフ・バランス　未来を託す　あいことば」。

準グランプリ（兵庫労働局長賞・働き方改革賞）に福井美岐さん（三田市）の「見つけよう　認めよう　自分に合った　ベストバランス」が、佳作（ひょうご仕事と生活センター長賞）に藤岡まり子さん（福崎町）の「広げよう!!　ベストバランス　我が社から」と、竹内友梨さん（姫路市）の「お互いさま・おかげさま　思いやりの連鎖が導く　ワークライフバランス」が選ばれた。

グランプリ作品は、ひょうご仕事と生活センターが作成するポスターや情報誌などに掲載され、ワーク・ライフ・バランスの普及促進に活用される。

### 株式会社ダイハツビジネスサポートセンター（伊丹市）

## 面談強化し復職円滑に

育休中の女性社員が集まって意見交換する「ママさんミーティング」

女性社員が約半数在籍し、ダイハツ工業グループ内でも女性社員比率が高い同社では、2年前から「グループ内で女性が働きやすい会社ナンバーワン」を目指し、環境や制度の整備に取り組んできた。

子育て期の社員への支援を強化し、育休を取得する社員との面談を復職3カ月前、1カ月前、復職3カ月後に実施することにした。2014年4月から産休を取得した商品事業部用品事業室の三木祐子さんは、直後に会社が合併し、復職後の不安が募ったが、3カ月前面談で復帰職場の上司から期待の言葉をかけられ「安心した」という。1カ月前面談では、短時間勤務制度を利用する旨を伝えることができた。保育園からの呼び出しで仕事がままならない状況が続いたときは、3カ月後面談で「会社に迷惑をかけているのでは」と不安を吐露したところ「まったく気にしないで」と声をかけられ、ほっとしたという。

商品事業部では、子育て世代をターゲットにした車種の用品開発に向け、三木さん含め社内横断的な女性社員のプロジェクトチームで商品を開発し、順調に売れているという。ダイバーシティ推進を担当する宮田絵美さんは「子育てしながら働いている社員が活躍している様子を見て、後に続く女性社員の励みになれば」と話す。

### 株式会社ウエスト神姫（相生市）

## 女性、高齢運転手も活躍

春名初子さんは入社20年目の女性ドライバー。定年後シニア社員に

相生、赤穂、山崎の3営業所を拠点に、バスを運行する。高齢化、過疎化が進むエリアで、従業員、利用者減はそのままバス事業の先細りにつながりかねない。そこで2014年に厚生労働省の「生涯現役社会実現モデル事業」の認定を受け「ドライバーも従業員も利用者も地域で生きていける会社」を掲げ、誰もが働き続けられる会社づくりを本格化させていった。

宍粟市が15年11月に導入した新たな交通体系の運行受託を担うことになった際には、女性や高齢者を対象に募集チラシを作成。女性ドライバー2人の採用につなげた。高齢者採用では、ドライバーは70歳まで、管理的な一般業務の従業員は70歳以上も雇用している。併せて屋内車庫照明を発光ダイオード（LED）に変更し、作業環境を整えた。

その結果、女性ドライバーは14年の1人から6人に、65歳以上の従業員は8人から26人に増えた。

介護対策にも力を注ぎ、対象者には午前、夕方の時間が空く早出、遅出のシフト勤務の利用を勧めている。気兼ねなくそうした働き方ができるようにするには、上司の理解がカギを握るため、管理者向けセミナーも実施している。「この地で誰もが長く働き続けられるよう仕組みをさらに整えていきたい」と須和憲和社長は話す。

### 株式会社あっぷる（姫路市）

## 事情くみシフト細分化

3人目の子どもを事業所内託児所に預けて働く施設長の寺地さん

姫路市を中心に30の介護施設・事業所を運営している。妻鹿明美部長は、自身が子育てと仕事の両立で苦労したこともあり、働きやすい職場づくりに努めてきた。「117グループの山下裕史代表が思いやりと理解のある方だったからできた」と振り返る。

まず取り組んだのが勤務体制の見直し。子育て、介護など事情に合わせて働けるよう、シフトの勤務区分を増やした。現在、社員は11区分、パートは22区分まで細分化され、1日2時間の勤務も可能だ。各施設では「子育て世代」「子育てを終えた世代」「中高齢世代」の3世代の従業員でバランスよく構成しているのも「同じ市内で小学校の子どもの行事が重なった場合などにフォローできるから」だ。

500人弱いる従業員の8割強は女性。「グループホーム姫路」の寺地真女施設長は2010年9月にパートで採用され、出産した3人目の子どもを事業所内託児所に預けながら働き、リーダー、チーフに昇格。その後、会社から正社員登用を打診され、施設長となった。利用者はもちろんのこと、職員への目配りを常に欠かさない寺地さん。

「普段からコミュニケーションをとっているからわずかな変化でも気付ける。皆で助け合える施設をさらに目指していきたい」と話す。